

人間・科学・宗教オープンリサーチセンター特別講義

「ビハーラ活動～物語を紡ぐ～」

◎願われないのちを共に生きる

患者も看護師も仏さまや家族に願われないのち

◎寄り添うものが寄り添われている

◎当事者意識 相手の悲しみをそばで悲しむ

でもそれができないことが多い

◎ビハーラとは仏さまが歩いた場所

「すでにこの道あり」 仏に照らし守られて歩む道 それがビハーラ活動

講師 新堀慈心 氏

あそかビハーラ病院緩和ケア看護課長・僧侶

聞き手 鍋島直樹

2024年12月11日 東101教室 183名



ビハラ活動についてそこまで詳しく知らなかった
ので、さらに知った事がふえてはかったです。

今日の講義を聞いて特に印象に残ったのは、夏前だけ
ではなく看護師も雇われたら、それを乗り越えるということ、
自分も自分で「ビハラについて研究しているのよ」とも勉強し
たみたい。おかげで知ることができた。

本場で死の直前や臨終の時に立会
ている方の話などは書籍聞くとかではできないので、
とても新鮮だった。

そして、あまりがよき人も人では話を聞いていて、心ではよ
かった。よりそう、よりそわれるの意識は、日常生活にも活か
せることだと思います。寝たきりの人が減る。

本日の特別講義で「ビハラ」が深く学んだ
の中で、「ビハラ」は仏教が歩いたところから、
「お釈迦さま」が「お釈迦さま」の「お釈迦さま」
「お釈迦さま」は自分でいい相対する「お釈迦さま」。

病室のカーテンをガリとしめないようにするなどの「小さな真遣い」は大切な事であると感じました。たとえ、自分が「小さな真遣い」と思っていたとしても、相手にほっとさせる大きな力を持っていると思いました。自分は生きている存在であると同時に生かされている存在であるのだと強く感じました。

いくら仏教を信仰していても死への恐怖というものは母くはるものではないことだと思い出し、また死への当事者感覚が大切だと知れた。

苦しむ人のその苦しみに寄り添うことは難しく、限界がある。しかしながら、自己一如である阿彌陀様はすべてを理解し、寄り添って下さる。これ程にいいお話を聞かせていただき勉強になりました。以前、鶴島先生に教わった「お金の使い方」の「さかいとき」に「なごり」のことがあり、とても感動しました。話「かおる」は私がつくったというお話は今後心にどうおこすかと思ひます。

現場で働く方の声が聞けてとても貴重な体験になりました。

若いお母さんのお話しが一番心に残った。
小さい子を2人産し、とてもお母の中、おれの子だから大丈夫と言うこのお母はとても強い人だと思ふ。

ヒール、臨床の難しいものと
思っていたが、真実の教えが少しずつわかっ
て来今、少し理解できるようになったなと感
謝した。

これまで患者さんと真正面から向き合ってきたから
こそ、今でも思い出すと涙が出るのだらうかと
思いました。おれは自分のメンタルが弱いと思っ
ていたので、もし何をする職業に就いたら、自分が
持たないもので、すごいお仕事だかと思ひました。

命について考えることができました。





ビレーラには 仏さまが歩いたところすべて
「すでにこの道あり」と 無事意識の意味の
込められて いることを改めて知りました。

手には 管、漏れなく 腹の中は いのちが あり
と 改め 感じました。
新垣さんのお話を 聞きながら、なぜか涙が 出て
しまいました。 どうしようもない ことも 生きていけるは 「あまのこ」
あまのこは 「あまのこ」という言葉が 心に 残りました。

新垣さんのお話を 聴いて 改め 僧侶としての自分を 振り返ることが 出来ました。
教師 教修を 先日 終えて、ホッとして いましたが、今一度 人に
寄り添っているのか、お僧侶や からの 言 周りに のって いかぬか、
自分を見つめ直し、そして 社会人 になるにあたり、僧侶
として どのよう に 生活していくのか、 考え みる 機会 と なりました。

「あまのこ」という言葉、感情は 伝染 する。
Aに かける言葉 も 思い ました。

アリスさんのお話と キリスト教 という 話を 聞いた。
仏さまが 歩いた 道は 「ビレーラ」と 呼ぶ。

「悲しみは 自分で 作っていた」という言葉が
心に 響きました。 もし したら 自分も 過去
に そう 思っていたのか もしれないと 感じました。

ビレーラは 興味。ある 分野 において。
話を 聞いて ても 有意義で
あり ました。

悲しみは 自分で 作っていた 言葉
に 感じ ました。



死直前に出会う第一線の話を聞き、考えさせられたことがあった。もっと勉強したい。

真実と看護について、実際の現場でのお話を聞くことかてするのは貴重でした。以前終末期の方が入院している病院でアルバイトをしたことがあります。通称もがあり、人との接し方について今一度考えたいと思いました。

ヒーラーに対する新居さんの思いが伝わってきました。あそかヒーラー病院に足を運んで現場の皆さんの様子をお話と伺いたいです。

道を通じて人を救うヒーラーの教えを私は大事に思っています。

ヒーラー活動への物語を聞く、について話を聞くことかてできました。新居さんの人柄の良さがとても伝わりました。またヒーラー活動の生の声も聞いたので、良い学習になりました。

ヒーラーについては授業などで多く耳にする機会があり、学んでいるのですが、実際に現場が働いている方の話を聞くのは初めてだったので、とても勉強になりました。過去を思い出すと涙も出るぐらい、大切なお仕事だと思いました。

看護士と医師がそれぞれ貴重なお話を聞けたのが良かった。

ヒーラーの大切さ、お手を代々つないでいくことの重要性を知る事ができた。



僕自身ビハ-ラについては昔から興味があり、
卒業論文もビハ-ラについての卒業論を書きました。
だからこういった貴重なお話を聞けてとてもうれ
しいです。

命の大切さや尊厳を教えてくれた
気がして。あのビハ-ラさん。

七子さんが村にいらしてかわいそうだと思っていました。
ですが、それは自身が死に思いついて「この世」という言葉でこれまで
の死に対する印象が360°変わりました。命が尽きた最後の時まで幸せ
でいようと思ひ、時には、思わせられたいと思ひました。

ビハ-ラさんの実体などをお話を聴いて少し知
れたと思う。また、看取りの心に自分が寄り添うという
ことの難しさ、動かしつても気をつけなければならぬとい
うことを知れた。もし、自分が死に近くなると同じ状態に
なると時、仏の慈悲の心を信じてお祈りかと思ひました。

自分のいのちが願われないのちであること
阿弥陀仏の慈悲の心に照らされていることを改めて
感じました。自分が人に寄り添って存在でありながら
自分が人に寄り添われている存在であることは
同じ願われないのちであるという視点を通して
感じることができました。

人に寄り添う言葉がなくなると、色んなことまでお祈り
満腹だった。特に、仏の慈悲を思い、思っていたのも
縁の縁、人に寄り添う。

かわいそうという気持ちには自分の中に存在する。という言葉に
はとしました。当事者達が自身をかわいそうと思っていないか
もしかわいのに、こちらが先入観で一方的にかわいそうと思ひ、心はこぼ
れお祈りしたいのかもしれません。ニュースをみたり時など気を付けよう
と思ひます。

新堀さんのお話の中で人に寄り添うという言葉は、
相手のお話を耳で理解する必要がある。しかし、私
では理解できない。むしろ寄り添わせてもらうと、お祈り
したいことに感謝を込めた。

卒論でビハーラのことを取り上げるので
ビハーラで働かっている人の話を聞いた
のはとても良い経験になりました。

ビハーラ活動でへお年である
行動で人助けをバカや出前のは
仏教者に向かっていると見た。

新堀氏、

ビハーラ活動についての講義、ありがとうございます。
「かわいそうな人は誰がつかののか」という質問には困難な状況に
ある他の人々に対する私の見方を本気で考えさせてくれました。

ビハーラ活動という言葉自体を初めて聞きました。
ですが、とても素晴らしいと感じました。そして、私も参加したいです。

私は将来住職になるので、生死とは
密に関わることになり、私自身も「生きる」
「死ぬ」ということはすごく大切なことだと思
っています。命はいいお話ありがとうございました。

ラッコ可愛いねたぞ、
命という大切さを知りました。

ラッコ



ビハーラ活動は
お年である人々のために
FVという活動がある
素晴らしい活動だと
感じました。

人間の生老病死という逃れられない
現実を身をもって体験されている新堀士
の話を聞いてなぜビハーラ活動が必要
なのかを知ることができました。





ビハラの活動の詳しい

ことまで理解できた。

患者と看護師の関係について
理解できた。

かわいそうは自分がつくるというのを聞いてたしかにと思った。

「ビハラはお釈迦様が歩いた場所」という言葉で
私もビハラというものを気づくことができた。

首平等、私もあなたも浄土に往生する身だと知り、「
往生する時に、一人ではいい、仏さまがいてると
感じることができた」。

ビハラ活動をするにあたり、患者さんを置き去りに
せずに寄り添い、共に進んでいくことが必要だと
感じました。

ビハラ活動をして下さる方の話を聞くこと
がとても有意義な時間でした。

今回の公演を聞いて、善悪がない
ということがいかにありがたきこと
なのかわかりました。

「寄りそってくれる、寄りそわれている」

という言葉は、今後生きていく上で大切にしたい
心構えだと感じました。自分も一僧侶として、
同じ時が来ると困っていることを増えたいと
思うので、この言葉を大切にしようと感じました。



私のいのちが誰にねがわれているのか考えた
ことがなかったです。両親は今も私のいのちを
ねがってくれているのでしょうか？

寄り添っていた」というのはあくまでもこちらの
願望であって、相手の感じ方によって決まる
ということときちんと理解しておかなければ
ならないと改めて考えさせられた。少しの時間で
相手に心から向き合うことが大切だと気づくことが
できた。

ゼミの授業で、ビハラー活動の内容
を学んだことがある~~ので~~たので、ために命を
命をおとす人に対してどのような言葉や
姿勢でいけばいいか深く考えた。

患者さんが一人で立ちまわるといふのが
ただの看護師ではなく、ビハラー活動を
自然に行っていると感じた。

ビハラーとして患者の方と関わりの中でとても大事な事
を学びました。
患者さんが大事なのだとわかりました。

いのちに善悪はないので、原動力としてのちを精いっぱい
生きたいと感じました。

冒頭でお話されていた「救える命は救いたい」
という言葉の心を打たれました。
救われている人に触れたい人になりたいと思えた。

良い講義でした。



ビハーク活動のリアルな話を聞き、死に直面している方をケアしているということに改めて実感しました。

かわいそうというのは自分が勝手に感じていることばかり
相手がどうとらえているかわからぬということがとても
勉強になりました。自分中心ではそれに向き合えないと感じました。

ありがとうございます。
看護師のお仕事は、あつこく厳しいのだと思わされました。
そうでもなく、ちゃんと寄り添えるかというのを、本人から聞くことは
難しいから。どうか、あまりご自分に厳しくしないで、「こんな自分
だ」ということは、アミカ様はよくわかっておられるから、新垣さん、ぜひ
心掛けていらしゃる気持ちの通りに完歩までおまかせの日もあると
、ご自分にやさしくおっしゃってあげてください。私もそう寄り添える

ビハーク活動をされている方の話を
初めて直接聞くことができて、とても良い経験でした

ビハーク活動は広めていくものではなく、築き上げていくもの
とおもわれていたのには、心動かされるものがありました。
ビハークとは仮設を歩かれたところすべてという意味を知り、
ビハーク活動とは仮設の心を通して私自身が共に歩いていくことを
求められる活動なのかもしれないと感じました。

「かわいそう」は自分の感情という点でよく理解できず、
自分も勝手に「かわいそう」と思っている相手は、自分もかわいそう
と思われているのではないかと感じました。

「我から我らへ」と「かわいそうな人は誰がつくるのか」という
文句が印象に残っている。特に「かわいそうな人
ということについては、ぼろぼろと視座で身付がされた。

生死病死を自分の心で考えることができて
いかに今回の講義を多く印象に残りました。



「ヒーローとは何かがあった戸外で、その言葉が心の中のりおれた
寄り心が大切な人だ」と思いました。

常に死と共に生きる我々の中にも、最前線で
その現場に向かい働きかかっている新堀さんの話は
心に深く突き刺さった。涙ながらに語りだしたお話は
忘れないで、自分のなかで改めて整理し向き合いたいです。

ヒーロー活動を実際にされている人の話を聞くことは
めったにないので、今日聞くことができほんとうに良かった
なと感じました。卒論のテーマをヒーロー活動にしようと思っ
たので、お話をヒーロー病院でのお話はとても貴重なものでした。

かわいそうという考えをもつのは私達の主観であり、
その人達は全くそう思っていない可能性もあることに
気づかされた。あんなにもあることではないと感じた。

母親が入院した子供たちの話を聞いて、
「かわいそう」という言葉は難しい言葉と感じた。
言葉の意味をしっかりと考えることが大切だと
感じた。

寄りそう前に、看者として話してもらおうと
心を開いてもらうことが大切だと思えた。
それには、普段から四六時が大事なことが分かった。

みんな誰かに想われて、願われて生かされていると知らずと、
かわいそうの人、ぜんぜん死んで無用のだと思えた。私は
自分の人生をかわいそうと思ったりとあるが、他の人の人生に
触れなくて、同じ経験をした人であっても違う人生のほどと知り、今では
私の人生は、悲しいこととあるが、羨望だと思えるようになった。
ある。そのことを今日の講義で思い出した。

今回のお話を聴き、改めて命の大切さや人々の助け合いが
生きていくことの大切さを感じることができました。



元貞張子というのはこれもついでのことだと思いましたが
 ついでには物悲者さんにも元貞張子、この話の間に私も元貞張子と思
 いかうな私がつく。とても心に響きました。
 自分だけが和の私かお前は木でい。おれたちがかり、和でいすためにいす。

「死に悪はない」という言葉があったが、これは当事者とは、自分の死に向きあ
 時の話としては間違いない。
 しかし、それは当事者以外に自分や家族の死に接する輩には多少の悔しさがある。
 「お前の死」という言葉は、死を覚悟も持たずにいす方がよく知ることか
 私語が日増しに増え、他にいすこと、お前の死に接する輩には多少の悔しさがある。

看護師の貴重な話が聞けて良かった。

いのちあるものはみな幸福と安楽で安楽。
 みなみなこの言葉通りになるはずで、平等なはずなのに
 このようになってしまった。自分は人罪を犯しているのかもしれないと
 思いました。

かあいうお人は客観的に見てものにすぎず当事者はど
 う思っているか、自分からいすという事は本当にその通りだ
 と思つた。相手の考えは、これは取り除くことにはできずはざる
 のにとも相手にあつた。と悲しいといふだけがもしい
 と思つた。相手の考えは、これは取り除くことにはできずはざる
 こと、これは敬虔でいすと思つた。

ビビラ活動について、看護師を号呼われているという活動は
 いふことか、なかつたので、おしく考へられる。

「どんな死に方でも善悪はない」この言葉は、たいていの人を救
 へると思つた。

かあいうお人を作つたのは自分自身だといふ言葉は、おしく考へられた
 共感できた。



個人的に印象的なのは「志者たけなげ」と「看破解也」という部分である。看破が一方通行のリアではなく、互いに互いに影響しあう相互関係であることが理解できた。

かわいさうはたは誰がつかうのか
セーラーとは何かという存り方があるのか
真歩に触れる者としての考えをせらふ
ことが多くなった。

昔は自分に無理強ひかかると自分で「自分からいのが」
本物のつらいことと自分で分けた。今はもうなまじうか
その人に無理強ひかかると自分で「評価できないのが」恨みや
屈辱感ののではないかと考えた。

確かに自分自身を気づかなければ
ならないと思いました。

イントでのセーラーの意味が「祝言」が英訳所
だと初めて知った。

存りたが私が存りおわっているという言葉
のように、常に相手の立場になり相手の
気持ちと考えることが大切であると
改めて感じました。

寄り添うとか寄りおわっているという話して
音程の生活についてあることだと思いました。

初めてセーラーで使った人のリアルな話しを
聞いた。



